

婦人部の活性化は地域の財産

— 漁業研究会との係わりのなかで —

内 浦 漁 協 婦 人 部
部 長 森 下 利 子

1. 地域と漁業の概況

内浦地区は、福井県の最西端に位置し、内浦湾を囲むように11の集落で構成し、西は京都府と境を接している。(図1)

内浦漁協は、内浦湾に接する3集落55名の組合員を有し、漁業形態は魚類養殖・小型定置・磯見漁業・釣り・さより漁等が営まれている。最近は遊漁船や民宿経営も充実して、内浦漁協で生産する魚類の多くは地元消費の傾向にある。

2. 研究グループの組織と運営

私達漁協婦人部は、平成5年10月厳しい漁業環境の中でこんな時こそ、今一度自分の足元をしっかりと見つめ、もっと視野を広げながら時代の流れに遅れないためにも学習してみようと部員8名で旗揚げした組織である。

親睦と交流をモットーに、しかし、「仲良しクラブ」だけの婦人部ではなく、少しでも地域の活性化に役立つ婦人部でありたいと、わかしお石けんの普及、海岸清掃、貝の養殖、販売を中心として活動している。もちろん運営費は部費とヒオウギ貝の販売収益が頼みの綱である。(資料1-①)

3. 研究・実践活動課題選定の動機

婦人部を結成したちょうどその時期、漁業研究会(漁青会員10名)がヒオウギ貝の養殖に取り組んでおり、販売部門の委託先を模索していた。私達婦人部の結成の動きと同時にヒオウギ貝の販売推進に期待が寄せられた。が、今まで地区外にもあまり出ず、人との交流も苦手な私達は、なかなか踏ん切りがつかなかった。しかし、同研究会の強い要望に負け、貝の販売推進を前向きに取り組むこととして、まずヒオウギ貝について勉強会を開き、婦人部活動に組み入れる事ができるものかどうか検討した。その結果、私達の内浦地区に五色山公園ごしまがあり、偶然にもヒオウギ貝は赤、黄、橙、紫、茶の五色であることから、「五色」という共通点があり、このヒオウギ貝を通して漁業振興や地域の活性化に一役も二役も仲間入りする絶好の時期ではないかとのことから、この貝で研究会とともに地域の活性化に取り組んでみようとなったのが平成5年の末だった。

4. 実践活動の状況とその成果

ヒオウギ貝はイタヤカイ科に属する暖海性の二枚貝で、名のとおりきれいな扇形をし

ていて低水温に弱く、養殖は太平洋沿岸の温暖な地域で盛んに行われている。福井県においても他地区で養殖を試みたが水温が低く育たず、内浦は養殖場としては日本の最北端となる。

(1) 販売の経緯

初めて見る貝に戸惑いながら平成6年より販売を開始したが、当初は貝の生存率も低く販売個数も限られていたため、地元民宿に販売する事から始めた。貝の生存率も年を経るごとに高くなり、販売先も地元の人達、飲食関係、小売店等に活路を求め販売数を伸ばした。(資料1-②・③)

研究会の養殖技術の向上に伴い貝の歩留まりも良くなり、当初の30%から平成11年には80%にまで伸び、私達は大量消費の道を探し始めることになった。が、京都府はイタヤ貝が、福井県嶺南には帆立貝が入っており、市場に出荷しても値が出ず、また思うように販路も拡大できず地団駄を踏んでいた。しかし、幅広く販路を拡大する前に先ず地域での消費の工夫と、ヒオウギ貝の料理の達人になろうと懸命の努力をし、女性ならではの発想と工夫でPRもした。

(2) イベント参加

販路の拡大を求めるにはイベントへの参加も欠かせないとの判断から、県、町、地区内外のイベントに積極的に参加し、五色貝のPR活動を繰り広げた。

PR活動としては、試食販売、各種の土産物として活用してもらう等であったが、食べ方については口頭で説明していたので、これをレシピにすることになった。そこで、レシピ作成のため、調理実習と、研究会・漁協役職員などとの合同試食会を重ねた。また、ポスターも作成し、民宿や漁協など地区内の要所やイベントに必ず掲示して活用している。(資料2・3)

イベントの中に私達が誇りにしているイベントが1つある。それは、地元内浦の五色山公園で平成10年から開催されている「響け芸術の森」である(資料4)。このイベントは、都会にはない豊かな自然、青く澄んだ風光明媚な日本海を前に、陶芸・絵画・工作などの体験教室や自然観測会、キス釣り大会、魚介類の試食販売など参加者の方々に作る楽しさや自然の素晴らしさを満喫してもらおうと計画しているものである。立案、計画、準備など全て私達の出番である。日夜この件で専念する婦人部は寝食を忘れてのあけくれだった。しかし、誰一人悲鳴をあげる者がいない。夫も子供も手伝いに来る日もあった。家族の協力にも頭のさがる思いがした。ますますみんなの顔が輝き出してくる。いよいよ当日、私達のコーナーは目を見張るばかりの出店ができた。青年部や子供会、そのお母さん方にも手伝いを要請したが、それでも昼食時間の混雑ぶりはパニック状態となった。その様子を見た中学生達が、「お手伝いをしましょうか」とのうれしい飛び入りもあった。たそがれが迫る頃、どっと疲労感が全身を襲い座り込む部員もいた。しかし、心の中は100%以上の充実感と自信と誇りに満ちあふれた。多くの方々の協力に対し、感謝の気持ちもフツフツと湧いてきた。この喜びを忘れることなく、後継者育成にもつなげたいと胸を躍らせている。

2年目の「響け芸術の森」は更に内容を吟味した。一年がかりの研究である。観光協会の協力で大きな水槽を設置し、生きた魚貝を多くの方々に見ていただいた。訪れた子供も大人もうれしそうに貝を触ったり、泳ぐ貝を見て歓声をあげ離れようとしないうる観客

で大賑わい。今、高校生、大学生となった彼や彼女達は、今回もまた「手伝いに来ました」と、私達のコーナーに来てくれた。また、試食販売したヒオウギの貝殻は持ち帰ったり、部員がその場で簡単な細工を指導したりで、ゴミとしては1個も残らなかった。いろいろな方との交流、出会いも大きな収穫となり、次の出会いを約束する者や現在でも交流の続いている人もいる。それにもまして大きな喜びは地元の人が私達の活動を理解し、賞賛し、応援しようとする雰囲気を感じられたことである。(写真1)

(3) 研究会との連携

貝についての勉強会を何度も開き、年度当初には販売可能数、販売価格、販売に関するアドバイスなどを受けている。また、研究会の貝の分養作業への協力について細かな話し合いを行い、機械の整備や効率よく作業ができるような工夫も知恵も出し合っている。今ではお互いの総会にも出席し合うようになっている。

また、私達は出荷用筏の設定並びに筏を貝の大きさ別に揃えるよう研究会に要望し、販売する際に不都合であったことを改善していった。自分達は、在庫一覧表・執務表の作成をし、漁協には、婦人部員がその場になくても販売できるように協力を依頼した。その結果、研究会からは、在庫管理がとてもし易くなったと喜ばれ、また、研究会員は機会あるごとに貝のPR活動をし販路拡大を協力してくれている。

(4) 地域の中で

平成10年地元の小学生が地元の事をもっと知ろうと、各地を取材。日引地区では魚の養殖とヒオウギ貝を取り上げた。船で筏まで行き、どのように養殖されているかを見て最後に一緒に調理実習をした。この様子は、町営放送で流され「テレビ見ましたよ。」「貝の養殖を内浦でやっているのを初めて知りました。」などの感想が寄せられた。また、イベントを通してお会いした食改善推進委員さんが、貝の新しいメニューを考えてくれたりと、この貝を通じてますます人の輪が広がっている。

5. 波及効果

このようにして私達は、この貝で地域の活性化になればという大きな同じ目標に向かって研究会と共に活動してきた。しかし、お互いが目指す方向には少しのずれがあった。それは、婦人部が販売しきれずに翌年に貝を繰り越すようになり一層そのずれが大きく表面化しだした。婦人部が目指すものは、内浦の五色貝としてこの貝をたくさんの人に知ってもらいたい、多くの方に食べてもらいたい、五色貝=五色山公園=内浦となって地域の活性化につながってほしい、そう思って活動してきた。しかし研究会は、技術面での成果が少しずつ向上し、より高い目標を打ち出すようになった。それは、経営面での採算性である。仕事の効率性、販売の増加、そして利潤の追求である。この課題は婦人部にとって重荷となってきた。私たちには、家に帰れば仕事がある、家事がある、子育てもある、70歳以上の老人が一人、もしくは二人いる。そんな中で、貝の活動に割ける時間はわずかだ。いつか考えねばならないであろうこの問題を、私達は忙しさを理由に避けていたことに気付き、そこで開催したのが、組合長、研究会会員、部員を交えての合同会議である。この会議ではお互いの問題点を出し合い、考え方の違いを話し合った。婦人部会員8名、研究会員10名、このうち夫婦は6組、親子1組の小規模会議

を何回も何回も開催した。公私混同せず自分の意見を主張して議論する。「お父ちゃん、お母ちゃん」と言い合うことなく、一人の女性として主張し、対等に話し合える会議に成長できた。組合長や研究会員のプラス思考での接し方が何より嬉しく感じた。ヒオウギ貝の専門的な養殖にまで関心を持ち意見を出す部員もでてきた。目を細めて聞き入る組合長が「婦人部も人数が少なくて大変だろうが10年、15年たったとき、きっと“良かった”と喜び合える日が来るに違いない。」とあたたかく見守っていて下さり、身近な存在のこの会議は、帰り際の足音は軽く、生活のスタイルまで変わってきたように感じられる。(写真2)

6. 今後の活動計画と問題点

イベントに行けば多くの方々が地域のこと、五色貝のことを話題にして話が弾み心が通う。地域を変えるのも、また変えられるのも婦人部である。このちっぽけな婦人部が、大きな「たつまき」を起こしたいと夢は次から次へと広がりを見せる。輝くところには人も集まってくれるだろう。ヒオウギ貝には旬の時期がある。同じように私達人間にも旬があるはず。今、私達婦人部はその旬であるといえる。そうありがたい。私達婦人部は、研究会と連携し、ヒオウギ貝に取り組んで「お金では買えない大切な心」を頂いた。これらの「心の貯金」を大切に、更にヒオウギ貝の普及に取り組んでいきたい。県の発表大会に参加者全員にヒオウギ貝をプレゼントしたところ、なんときれいな貝だろうと大変喜ばれ、部屋のアクセサリーに、壁掛けにと活用していただいている。食べた後の貝は、「捨てればゴミ、生かせば大切な宝物」にと変身している。当地区では、庭に敷きつめてあでやかさをかもしだし、近所の人にはうらやましがられている人もいる。

今、組合事務所のある日引区の漁港整備が行われている。漁協が地域のいろいろな組織・団体の方々を交え整備される土地や建物をいかに利用・活用していくか何度も話し合いを行っている。その話し合いの中に私達婦人部も入っている。

婦人部は小さな歯車である。組合や行政という大きな歯車が回れば当たり前のように回ってきた。しかし、これからは自分たちで企画し、それを実現するために考え、実行する。活性化の一途をたどる私達婦人部は、地域の財産であると認められるよう歩み続けたい。

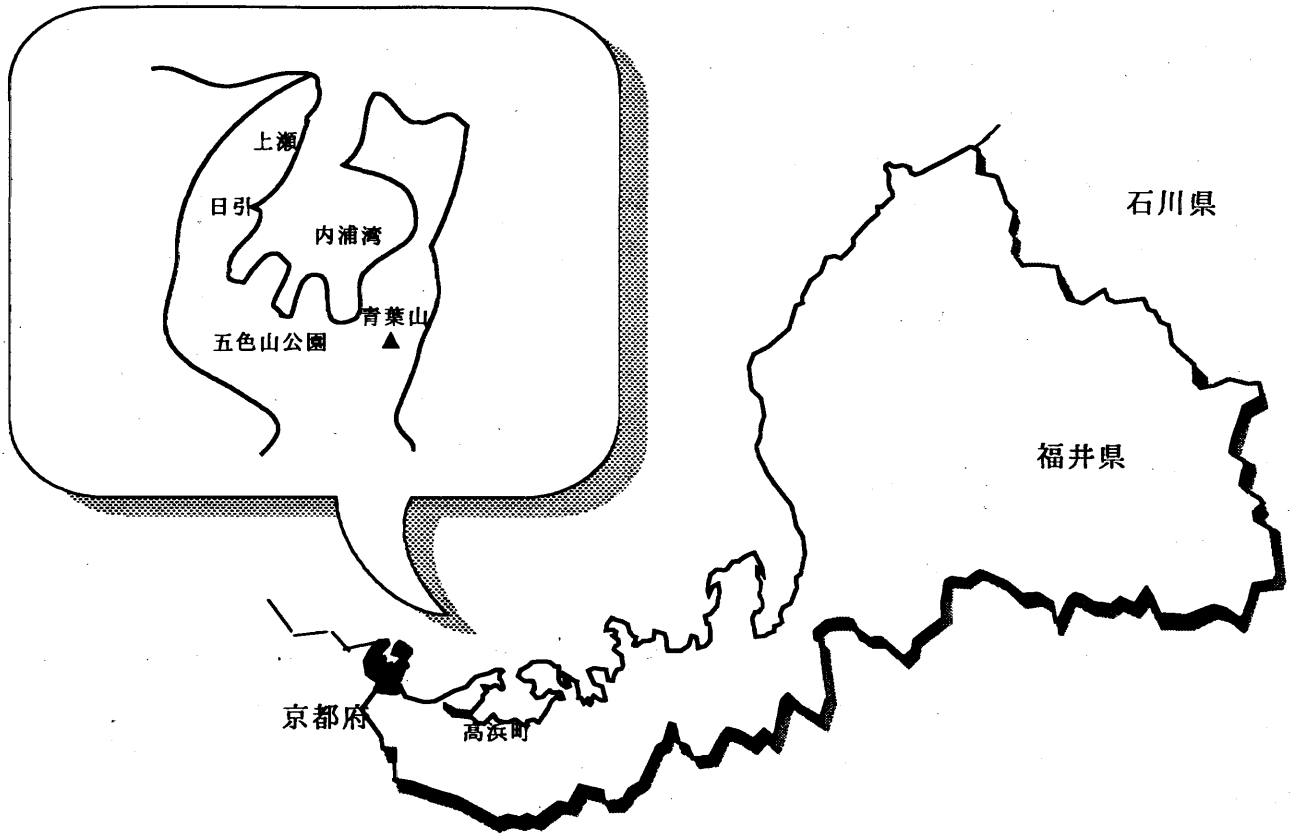
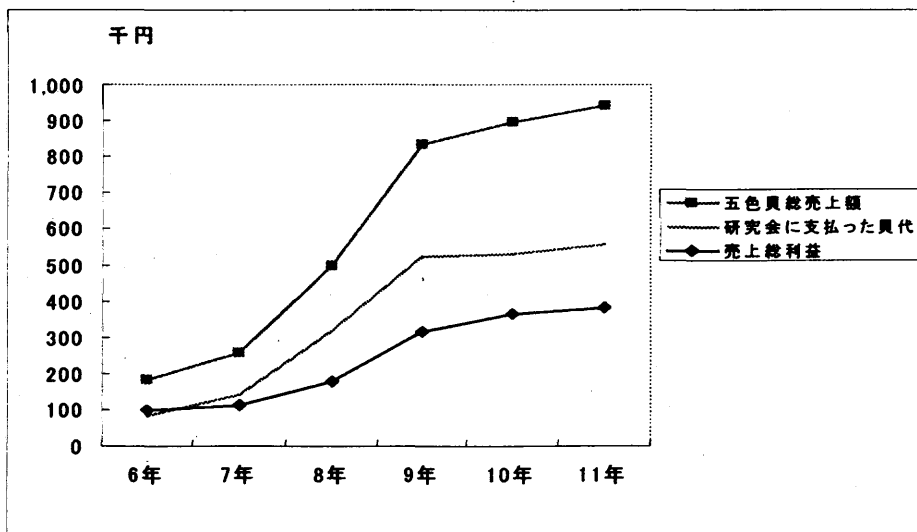


図-1 位置図

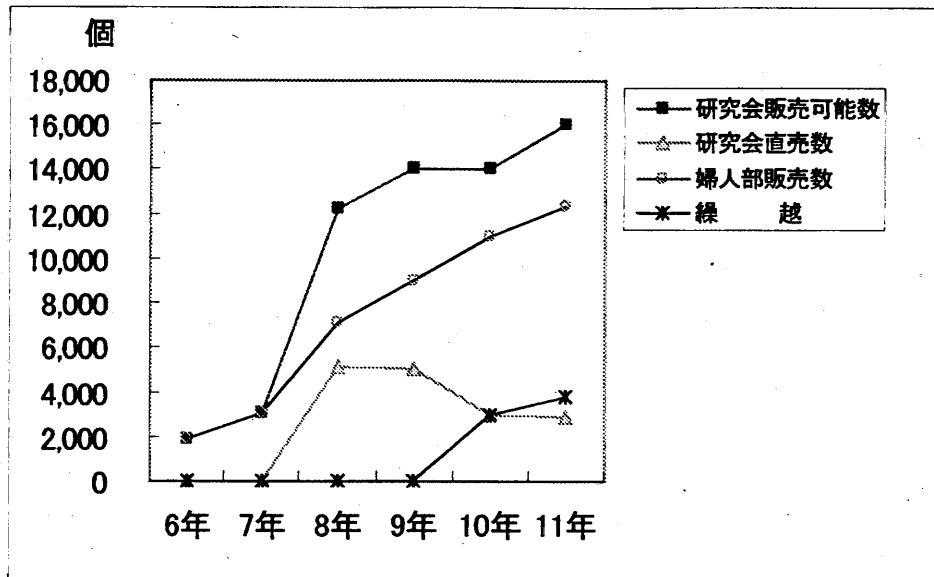
資料1-① 販売額

平成	五色貝総売上額	研究会に支払った貝代	売上総利益
6年	184,916	85,901	99,015
7年	257,801	143,130	114,671
8年	498,822	320,796	178,026
9年	836,002	521,769	314,233
10年	895,985	531,704	364,281
11年	940,000	556,694	383,306

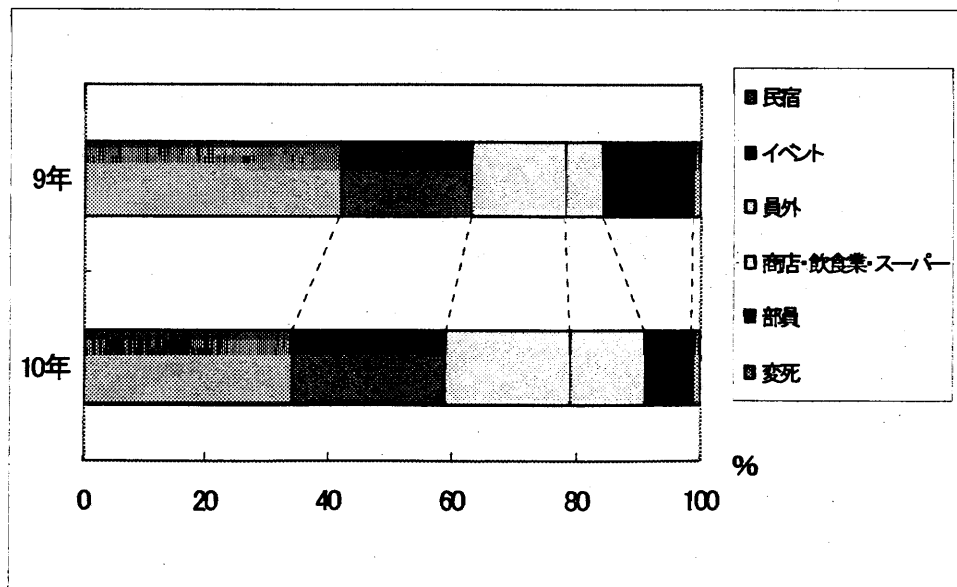


資料1-② 販売数

平成	研究会販売可能数	研究会直売数	婦人部販売数	繰越
6年	1,850	0	1,850	0
7年	3,100	0	3,100	0
8年	12,200	5,100	7,100	0
9年	14,000	5,000	9,000	0
10年	14,000	3,000	11,000	3,000
11年	16,000	2,900	12,300	3,800



資料1-③ 販売先データ



99響け芸術の森

秋の部

11月13日 雨天決行
日(土)

午前10時～午後4時
会場/高浜町山中 五色山公園

自然の食材採集・料理

～とって・つくって・たべよう～

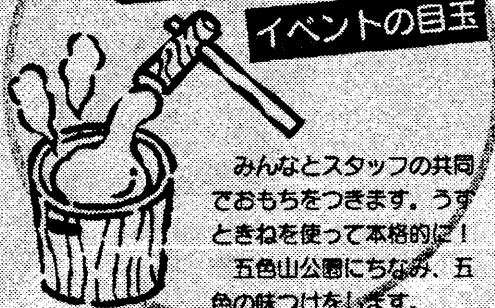
湖の幸(魚・貝)、山の幸(きのこ・木の葉)などを自分たちで取りに行きます。あとは、みんなでつくって、食べるだけ!



五色の貝がら細工 食器づくり

五色貝の貝がらを使った貝がら細工。竹を使ってのおはしやおわんづくり。自分たちで作った食器で食べれば、料理の味もまた、格別!

五色もちつき コーナー



イベントの目玉

みんなとスタッフの共同でおもちをつきます。うすときねを使って本格的に! 五色山公園にちなみ、五色の味つけをします。

匠の美術館 見学

～イベント当日 無料開放～

「匠の美術館」を無料開放し、日本の優れた伝統工芸を鑑賞して頂きます。

陶芸作品 展示

～陶芸作品の色つけ かま焼き完了～

8月の体験教室とイベントに参加したみんなの陶芸作品を展示します。

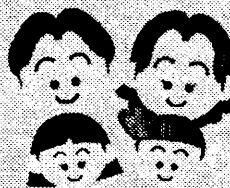
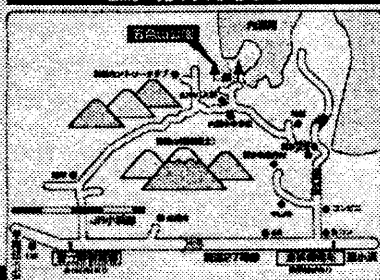
特産品コーナー

内浦地区の特産品「五色貝」を使った料理を用意。メニューはお楽しみに!

有料

送迎はありませんので各自でご参加下さい。

会場案内図



参加は自由で無料(特産品コーナーを除く)となっていますので、ご近所お願い合わせの上、お気軽にご参加ください! 車でお越しの方は、イベント会場に駐車場がありますので、案内看板に従って駐車してください。

お問い合わせ先

高浜町五色山イベント実行委員会事務局
(事務局: 役場企画課 72-1111)

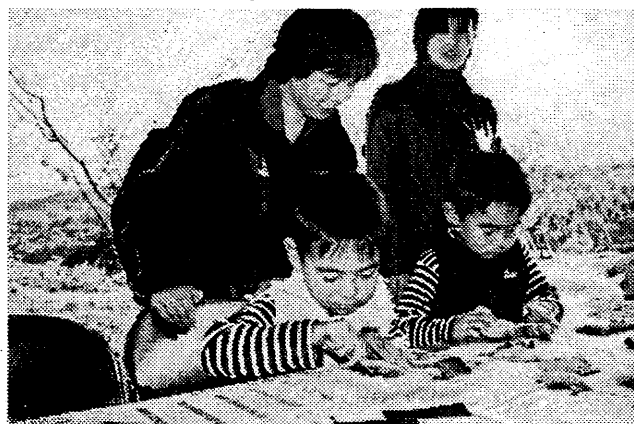
主催/高浜町・高浜町五色山イベント実行委員会 事後援/近畿通商産業局
協力/内浦漁業協同組合・岡崎人部・広瀬山自然公園管理組合

電源地域産業育成支援事業

写真1 イベントの1つ「響け芸術の森」の一コマです。



←↓きれいな五色貝で
作った宝物とは？



↑中学生、高校生の飛び入りの応援
で賑やかなコーナーに。



↑高浜町商工会青年部、内浦子供会
のお母さんの協力を得て軽食の部を担当。

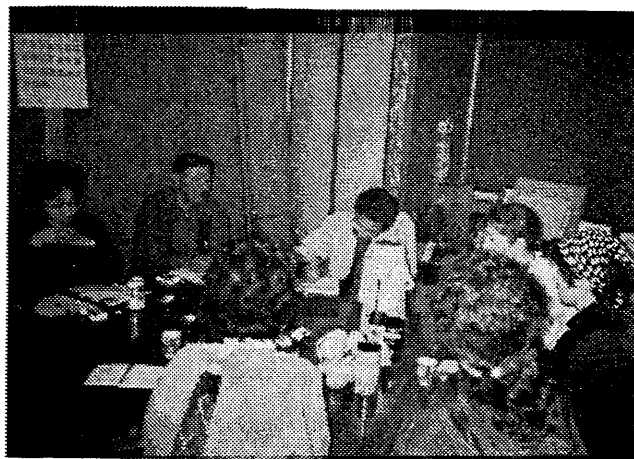


写真2 問題解決のカギは話し合うことと…。